

## 平成20年度 自己評価・学校関係者評価

### 自己評価

1 学校教育目標	創意ある教育実践を通して、豊かな人間性と児童生徒一人一人の発達段階や障がいの状態に応じた生きる力を養い、社会参加・自立できる人間を育てる。	
2 評価する領域・分野	安心・安全な学校生活（施設・設備、防災、医療）	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「保護者対象」アンケートから ・「医療機関との連携による健康管理」「緊急時の対応」「施設・設備の安全管理」については、80%以上の保護者から高い評価を得ている。しかし「医療的ケア等の安全教育」については、当てはまらない(11%)、不明(13%)であり、他項目に比してやや多く、職員研修のあり方や医療的ケアの方法については検討の余地がある。 「生徒対象」アンケートから ・「安全への配慮」については、88%の支持を得ている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	児童生徒の健康・安全に配慮した教育環境をより一層充実するとともに危機管理体制を確立する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<環境整備部を中心にした施設・設備の管理> ・遊具や施設・設備の定期的な点検を実施するための組織づくり。 ・遊具の扱い方を周知徹底するための、職員研修会の計画・実施。 <体育安全部を中心にPTAとの連携による緊急災害への対応> ・緊急災害時の対応訓練の計画的実施等。 <保健部を中心にした医療的ケア、医療機関との連携> ・養護教諭、看護講師との連携と医療的ケア検討委員会の実施。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 安全点検日を設け、全職員による施設・設備の点検を実施する。 (2) 大型遊具を中心に、安全点検について職員の共通理解を図る。 (3) 避難訓練、緊急対応訓練等を児童生徒の実態に応じたグループごとで実施すると共に、保護者も訓練参観する。 (4) 医療的ケアに関する研修を行うと共に、緊急医療体制について共通理解を図る。	(1) 全職員による安全点検と点検内容の妥当性。点検後の適切な処置の実施状況。 (2) 児童生徒に応じたグループ研修会や対応訓練の実施状況。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・毎月1回、全職員により校舎・設備の安全点検を行った。 ・学校全体で3回の避難訓練を実施した。寄宿舎や、児童生徒の実態に応じた小グループごとに避難訓練を実施した。 ・不審者侵入の対応訓練に取り組んだ。 ・専門医・看護講師を講師として、医療的ケアに関する実技研修を実施した。	「安全配慮義務」について意識を持って取り組めたか。 予想される危険性やそれをどうしたら未然に防ぐことができるかなど、職員間で共通理解した上で取り組めたか。 訓練が、安全面に配慮して実施できたか。	[A] B C D A [B] C D [A] B C D

<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者・担任・養護教諭・看護講師による児童生徒の主治医との面談を行い、病状把握と対応方法等について協議した。</li> <li>・「健康観察週間」を設け、児童生徒の健康について再点検することに心がけた。</li> </ul>		
<p>11 成果 ・ 課題</p>	<p>「学校事故における救急体制に関するアンケート」による意識調査では、事故発生時や緊急時の対応（けがの応急手当、心肺蘇生、A E Dの使用）について「できる」職員数（％）が、年度当初から比べ増加した。</p> <p>保護者・担任・養護教諭・看護講師と主治医面談を行い、児童生徒の病状把握や問題点の明確化を図ることができた。また緊急時の対応方法等について共通理解を図ることもでき健康安全に向けての対応向上に繋がった。</p> <p>思い込みや慣れによる事故を防ぐ。</p>	<p>総合評価</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A   B   C   D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「思い込みや慣れによる事故」については、「施設・設備の点検」「避難訓練」「健康チェック」等を、年間計画に設定し適切な時期に繰り返し実施していく。また点検、訓練、健康チェック等が形式的にならないよう「担当校務分掌」や「管理職」等から職員に対し依頼・指導を続ける。</li> </ul>		

### 学校関係者評価

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時の対応として、「非常食・水」の保存、「緊急カード」の運用等、学校側の理解・協力を感謝している。</li> <li>・校舎・施設に不備等があったが、早急に対応して貰っている。全トイレへの「転落防止用具」の設置など、更に安全・安心な学校づくりをお願いしたい。</li> <li>・事故はつきものなので、緊急時の対応の仕方が大切である。事故の記録をしっかりと残しておくことが重要である。</li> <li>・防災関係のことでは、よく訓練が実施されているが訓練と実際とは違う。訓練は何回も行うことが大切であり続けていって欲しい。</li> <li>・総じて、安心・安全な学校生活にしっかり取り組んでいる様子が伺われる。</li> </ul>
---

2 評価する領域・分野	学習活動・家庭との連携	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>「保護者対象」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者及び生徒の、授業への取組み状況や授業内容に関しては、高い評価を得ている。一方「教材・教具の工夫や準備」については、概ね良好な評価を得ているが、障がいの多様化に伴ない更なる検討の必要性も求められている。</li> </ul> <p>「生徒対象」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業については概ね良い評価を得ている。ただ、22名中4名の生徒がやや不満足と回答していることから、今後どの生徒にも満足が得られるような、さらに個別対応の授業づくりに努める必要がある。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>「指導と評価の年間計画」と「個別の指導計画」の充実を図り、指導のねらいと評価を明確にしたきめ細かな指導に努める。</li> <li>体験的な学習を重視し、指導方法や評価、教材・教具などの工夫改善に努める。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>&lt;学部・学年・類型・クラス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の学習のつまずきを多角的に検討し、教員同士の指導の共通化や同一性を図るために「学年の日」の設定。</li> <li>コミュニケーションツールの活用、学習用、作業用補助具の考案など、障がい特性に応じた支援のあり方について研修・検討会の実施。</li> <li>コンピューター、写真、絵カードなど、視覚的な教材・教具の活用と教師間の共有を図る小グループ単位の検討会の実施。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学年会や指導グループ毎で、児童生徒の実態を複数の職員の目で比較検討する。</li> <li>(2) 個別の指導計画を学期毎にまとめ、次学期の目標を立てる。</li> <li>(3) 児童生徒の障がいの状態と程度に応じた教材・教具の工夫をする。</li> <li>(4) 外部の訓練機関や事業所のサービスなどの情報を収集し、保護者に必要に応じて提供できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 一人一人の児童生徒の実態を把握した、個に応じた指導の実施状況。</li> <li>(2) 授業の振り返り、学習の定着状況を確認しながらの授業実施状況。</li> <li>(3) 児童生徒の障がいの状態や特性等について、保護者と共通理解を図った上で、教育活動が実施できたか。</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>学年や指導グループ毎で会議を開き、児童生徒の学習指導について検討した。</li> <li>保護者と指導の共通理解を図るために学期毎に指導の結果をまとめ、学期末に保護者懇談会を開き説明し、次学期の指導の方針の共通理解を図った。</li> <li>7月「保護者・生徒対象アンケート」、12月授業参観日に「保護者対象の授業アンケート」を実施した。</li> </ul>	<p>わかる授業、楽しい授業に取り組むことができたか</p> <p>体験的な学習を取り入れた授業ができたか。</p> <p>生徒理解、保護者理解に心がけて指導できたか。</p> <p>教材教具は児童生徒一人一人に適したものであったか。</p>	<p><input type="checkbox"/>A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C <input type="checkbox"/>D</p> <p><input type="checkbox"/>A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C <input type="checkbox"/>D</p> <p><input type="checkbox"/>A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C <input type="checkbox"/>D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C <input type="checkbox"/>D</p>
11 成果・	<p>保護者と「個別の指導計画」をもとに、児童生徒の指導について話し合いを持ち指導の方向性や共通理解が進んだ。</p> <p>実際に体験する学習を取り入れておこなうことで、学習の理解と定着が図られた。</p>	
	<p>総合評価</p> <p><input type="checkbox"/>A <input type="checkbox"/>B <input type="checkbox"/>C <input type="checkbox"/>D</p>	

課題	一人一人に応じた教材・教具の開発と活用が、小集団内で行われている傾向があり、学校全体として共有されていない。	
----	--	--

12 来年度に向けての改善方策案

- ・「教材・教具の開発と活用を学校全体としての共有すること」に関して、各学部単位や学校全体で「教材教具に係る研修会」を実施し、開発した教材・教具の紹介や開発に当たったの情報交換などを積極的に実施していく。

## 学校関係者評価

### 【意見・要望・評価等】

- ・学校教育目標は教育活動の根源になる大切なものである。「生きる力」をどのようにとらえるか、「社会参加・自立」をどこまで求めるのかの認識が大切である。これらは時代や子ども達の状況によって変わってくるものであり、共通理解して取り組むことが大切である。
- ・「学校だより」に掲載の、授業参観の保護者アンケートから、学校をより良くしていくための取り組みについて、保護者に理解されてきていることがわかる。また、「学校だより」の内容が状況に応じて具体的に掲載されており、学校の様子がイメージとしてわいてくる。
- ・「学校だより」などによる情報公開は、学校及び児童生徒を理解して貰うために非常に大切である。また卒業生の中には、ボランティア活動をしながら家庭生活を送っている人もいるが、社会に理解して貰うことが大切である。
- ・一般的には、保護者と先生方の考え方に差があるのは、一人一人の障がいや保護者自身の考え方が違うのでいた仕方がないが、本校の場合は保護者と学校のコミュニケーションがよくとれており、保護者が学校についてよく理解しているようである。

2	評価する領域・分野	進路指導			
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>「保護者対象」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「進路指導や情報提供」については、88%の保護者から「良好」の評価を得ている。</li> <li>・「関係諸機関との連携」については、76%の保護者から「良好」の評価を得ているが、21%の保護者からは「不明」の評価となっており、小・中学部の保護者に対する情報提供等について検討の余地が考えられる。</li> </ul> <p>「生徒対象」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の将来と自分の保護者との連携」については、72%の生徒から「良好」の評価を得ているが、22%の生徒には「不明」の評価となっている。高等部低学年及び中学部におけるキャリア教育のあり方について検討の余地が考えられる。</li> </ul>			
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	進学指導・・・進路意識の育成と進路志望達成に向けた力の育成 就職指導・・・施設体験実習等の実施をとおした、卒業後に必要とされる力の育成			
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部を中心として、高等部生徒への具体的な進路指導と中学部生徒へのキャリア教育充実のため、学部間の連携をすすめる。			
6	目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 進学指導		(1) 進路志望の具体的達成状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学見学、オープンキャンパス参加等</li> <li>・補習、面接指導、小論文指導</li> </ul>		(2) 保護者と学校との連携状況			
(2) 就職指導		(3) 保護者・生徒と、市町村・進路先との連携状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・補習(一般教養、作文)、面接指導、模擬試験</li> <li>・地域実習、施設見学、施設体験実習</li> </ul>		(4) 学部間における情報交換及び連携の状況			
(3) 市町村・進路先との移行支援会議の実施					
8	取組状況・実践内容等	9	評価視点	10	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学指導では、高等部3年1学期から計画的な補習、面接指導、小論文指導等の進路指導を実施した。</li> <li>・就職指導では、高等部3年生が志望先での就業・施設体験実習を繰り返し実施した。また1年生から、地域実習、施設見学、施設体験実習を積み重ねた。</li> <li>・移行支援会議を実施し、円滑な移行への準備を行った</li> <li>・中学部では、「作業学習」を通して、将来の職業選択に向けての体験的学習を始めた。</li> </ul>		<p>進学志望先が生徒個々の実態に合ったものであったか。志望先の達成状況は満足できるものであったか。</p> <p>就職・施設志望先が生徒個々の実態に合ったものであったか。志望先の達成状況は満足できるものであったか。</p> <p>移行支援会議は、円滑な移行について実の伴ったものであったか。</p> <p>中学部の生徒の取り組みは、主体的に学ぶ態度の育成に繋がるものであったか。</p>		<p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p>	
11	成果・課	<p>進学指導では、積極的な進路指導を実施し生徒も熱心に進路志望実現に向け努力した。殆どの生徒は自分の志望を達成できたが、一部の生徒は志望達成が困難なケースもあった。</p> <p>就職指導では、年間を通じた計画的な指導と生徒の努力により、殆どの生徒は自分の志望を達成できたが、一部の生徒は、志望達成が困難なケ</p>		<p>総合評価</p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/></p>	

題	<p>ースもあった。          小・中学部段階におけるキャリア教育の推進          卒業生への支援          保護者へのさらなる情報提供</p>	
---	--	--

<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機関紙「進路だより」へキャリア教育について広報していく。各学部段階におけるキャリア発達能力の開発目標を検討していく。</li> <li>・夏季休業中に卒業生への支援相談を計画的に実施する。</li> <li>・機関紙「進路だより」の見易い紙面づくりと内容の検討。</li> <li>・各学部段階におけるキャリア発達能力の開発目標について、職員研修会を実施する。</li> </ul>
---

## 学校関係者評価

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自己評価（進路指導）」には「B」が多いが、もっと高い評価でも良いと思われる。保護者と学校側の考え方の違いは、とらえ方や視点の違いによりいた仕方ないと思われる。</li> <li>・就労移行支援について、A型（雇成型）・B型（非雇成型）があるが、いずれも訓練が中心である。A型の場合は訓練を開始して2年後の就労を目指しているが、なかなか難しい現状である。まだまだ、障がいのある人が社会へ出て行くことは厳しい状況である。福祉制度が更に向上していくことが望まれる。</li> </ul>
---